

立教学院 2023 年度決算について

(説明資料)

立教学院は、2024 年 5 月 24 日の理事会において 2023 年度決算が承認されたことを受け、ホームページにおいて決算資料を公表しました。

財務部では、これらの決算資料の概要を説明し、本学院の財政状況を分かりやすく示すことを目的として本資料を作成しました。

決算資料と併せてご覧いただくことで、より多くの方々に本学院の財政状況をご理解いただきたいと考えています。

決算資料公表 URL <https://rec.rikkyo.ac.jp/disclosure/reports/>

*各計算書および図において、単位未満を端数処理しているため、合計等に差異が生じている場合があります。

立教学院財務部

1 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書とは、「教育活動収支」「教育活動外収支」「特別収支」の3つの事業活動に分けて、当該会計年度の事業活動収入および事業活動支出の内容を明らかにするとともに、収支の均衡状態を示すものです。

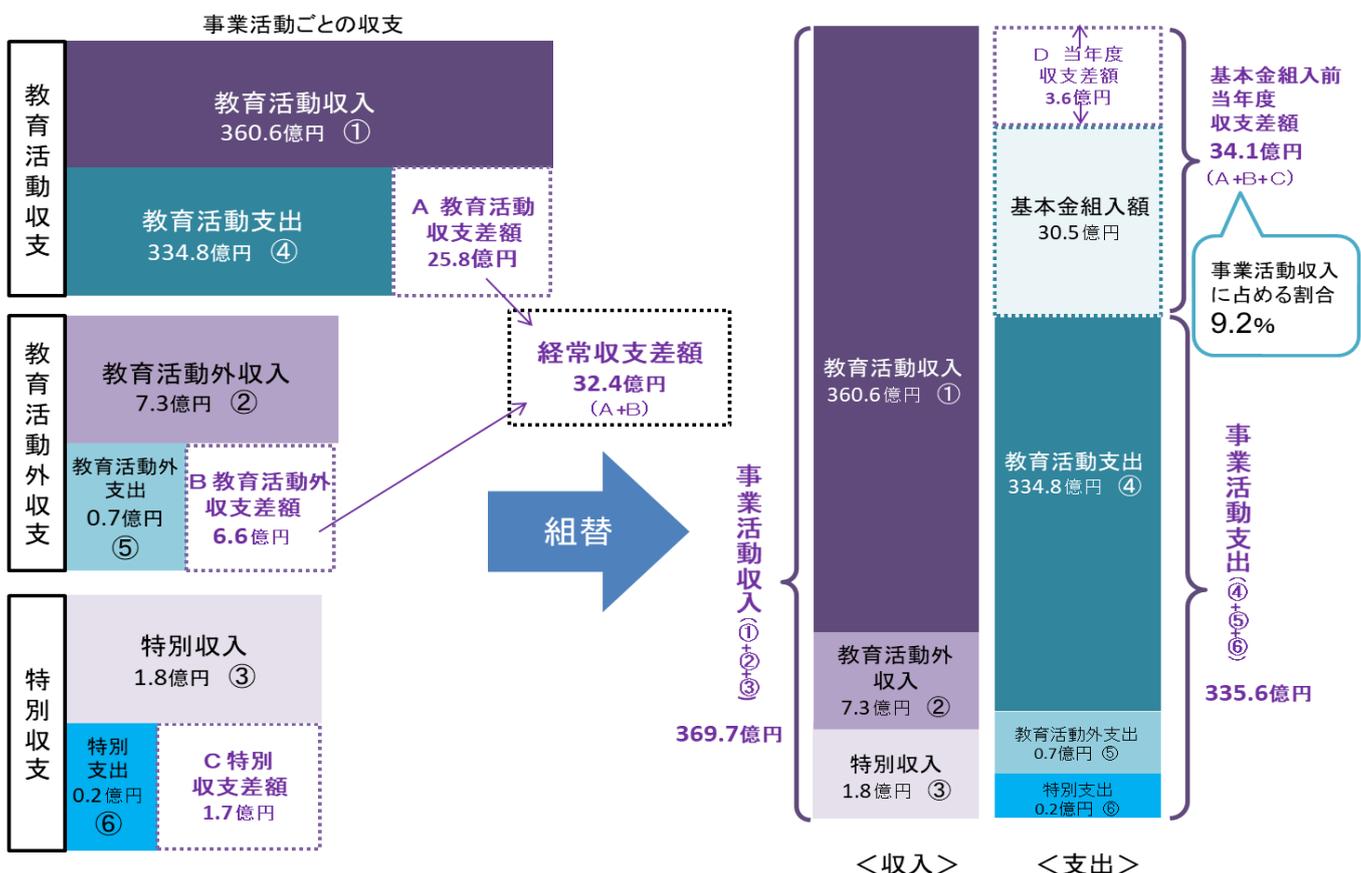
「教育活動収支」と「教育活動外収支」では経常的な活動による収支状況を表し、臨時的な収支については「特別収支」で表します。

新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行したことにより、留学、ゼミ合宿といった国内外のプログラムが再開されました。その結果、決算比では、旅費交通費（前年比1.6億円増）、委託費（前年比1.6億円増）が大幅に増加しました。一方で、光熱水費等の減少により、教育活動支出は予算比では16.6億円減少したものの、決算では前年と比べ9.0億円増加しました。

収入面では、手数料が予算比で減少した一方、立教学院創立150周年記念募金等による寄付金や、経常費等補助金、受託事業収入が増加し、教育活動収入は予算比で4.5億円増加しました。その結果、教育活動収支差額は25.8億円のプラスとなりました。受取利息・配当金の増加により、教育活動外収支差額は6.6億円のプラスとなり、これら2つの収支差額を合計した経常収支差額は32.4億円のプラスとなりました。

特別収支差額は現物寄付の増加もあり、1.7億円のプラスとなりました。以上の結果、基本金組入前当年度収支差額はプラス34.1億円、事業活動収支差額比率は9.2%となりました。

図1 事業活動収支計算書の構成 概要



事業活動収支計算書

経常的な収支のうち、本業である教育研究活動に関する区分です。

寄贈者から贈与された金銭の合計です。
※施設・設備のための寄付金、現物寄付を除く。

国または地方公共団体等から受け入れた金銭の合計です。
※施設・設備のための補助金を除く。

減価償却額等を含む教育研究に係る経費の合計です。

減価償却額等を含む法人業務や学生募集等に係る経費の合計です。

経常的な収支のうち、財務活動に関する区分です。

収益事業収入等、学校法人の教育研究活動以外の活動による収入です。

経常的な事業活動による収支差額です。
(教育活動収支差額 + 教育活動外収支差額)

一時的に発生した臨時的な収支に関する区分です。

施設・設備のための寄付金、現物寄付、補助金等です。

固定資産の除却や有価証券の売却損等、資産の処分に伴う費用です。

経常収支差額と特別収支差額の合計で、当該年度全体の収支差額です。

当該年度の支出額のうち、学校法人を維持するために必要な資産を継続的に保持するための組入れ額です。

● 教育活動収支

(単位：千円)

科目	予算	決算	差異 (△印超過)
学生生徒等納付金	28,221,855	28,234,916	△ 13,061
手数料	2,037,344	1,980,487	56,857
●寄付金	938,407	1,241,124	△ 302,717
●経常費等補助金	3,430,035	3,539,657	△ 109,622
付随事業収入	223,376	300,306	△ 76,930
雑収入	754,958	761,541	△ 6,583
教育活動収入計	35,605,975	36,058,032	△ 452,057
人件費	18,737,398	18,477,759	259,639
●教育研究経費	14,368,160	13,045,538	1,322,622
●管理経費	2,034,616	1,950,806	83,810
徴収不能額等	0	2,179	△ 2,179
教育活動支出計	35,140,174	33,476,283	1,663,891
教育活動収支差額	465,801	2,581,749	△ 2,115,948

● 教育活動外収支

科目	予算	決算	差異 (△印超過)
受取利息・配当金	474,791	534,059	△ 59,268
●その他の教育活動外収入	200,000	200,000	0
教育活動外収入計	674,791	734,059	△ 59,268
借入金等利息	71,418	71,416	2
その他教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	71,418	71,416	2
教育活動外収支差額	603,373	662,643	△ 59,270

● 経常収支差額 1,069,174 3,244,392 △ 2,175,218

● 特別収支

科目	予算	決算	差異 (△印超過)
資産売却差額	0	98	△ 98
●その他の特別収入	114,850	182,743	△ 67,893
特別収入計	114,850	182,841	△ 67,991
●資産処分差額	15,607	16,178	△ 571
その他の特別支出	0	13	△ 13
特別支出計	15,607	16,191	△ 584
特別収支差額	99,243	166,650	△ 67,407

[予備費] (149,252) 170,748 170,748

● 基本金組入前当年度収支差額 997,669 3,411,042 △ 2,413,373

● 基本金組入額合計 △ 3,748,428 △ 3,048,133 △ 700,295

当年度収支差額 △ 2,750,759 362,909 △ 3,113,668

前年度繰越収支差額 △ 10,028,096 △ 10,028,096 0

基本金取崩額 0 0 0

翌年度繰越収支差額 △ 12,778,855 △ 9,665,187 △ 3,113,668

(参考)

事業活動収入計 36,395,616 36,974,931 △ 579,315

事業活動支出計 35,397,947 33,563,889 1,834,058

※千円未満四捨五入

2 資金収支計算書

資金収支計算書とは、当該会計年度の諸活動に対応するすべての資金の収入および支出の内容と、支払資金の収入および支出についてその顛末を明らかにするものです。

新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行したことにより、留学、ゼミ合宿といった国内外のプログラムが再開され、これらに必要な支出を行いました。加えて、キャンパス隣接地の取得やスポーツウエルネス学部・研究科開設とコミュニティ福祉学部・研究科再編に伴う施設整備を行いました。その他、新座体育館、池袋12号館の空調・照明設備の更新や富士見グラウンドの防球ネットの更新等、教育研究に必要な設備の更新を行いました。手数料収入が予算比で減少した一方、予算比で寄付金収入(2.6億円増)、補助金収入(1.1億円増)、受託事業収入(0.8億円増)が増加しました。施設関係支出は、執行段階での競争原理・折衝効果や、新座新棟9号館の建設計画における支払いの一部が次年度となったこともあり、予算比で9.1億円減少しました。資産運用支出(各種特定資産の積み増し)は予算比で2.8億円増加しました。その結果、翌年度繰越支払資金は63.4億円(前年度比17.1億円増)となりました。

資金収支計算書		■ 収入の部			
		(単位:千円)			
		科目	予算	決算	差異 (△印超過)
大学・高等学校・中学校・小学校において納入された学費です。	●学生生徒等納付金収入	28,221,855	28,234,916	△ 13,061	
主に入学試験の検定料や証明書の発行手数料です。	●手数料収入	2,037,344	1,980,487	56,857	
私立大学等経常費補助金を始めとする国・地方公共団体からの補助金です。	●寄付金収入	946,407	1,204,339	△ 257,932	
	●補助金収入	3,536,885	3,643,126	△ 106,241	
	●資産売却収入	0	98	△ 98	
受託研究や収益事業等による収入です。	●付随事業・収益事業収入	423,376	500,306	△ 76,930	
	●受取利息・配当金収入	474,791	534,059	△ 59,268	
主に私立大学退職金財団からの交付金や、学校法人の施設貸し出しによる施設設備利用料収入です。	●雑収入	754,958	756,652	△ 1,694	
	●借入金等収入	0	0	0	
入学手続きをした翌年度の新入生から受け入れた授業料や学金です。	●前受金収入	4,923,848	5,085,837	△ 161,989	
	●その他の収入	4,753,528	3,405,635	1,347,893	
主に特定資産の取り崩し収入や前年度末に未収入金となった補助金等の入金額です。	●資金収入調整勘定	△ 5,565,853	△ 5,765,614	199,761	
	●前年度繰越支払資金	5,445,339	5,445,339	—	
当該年度に受け入れることができなかった収入(期末未収入金)と、前年度にあらかじめ受け入れていた当該年度の活動に関する収入(前期末前受金)です。	●収入の部合計	45,952,478	45,025,180	927,298	
		■ 支出の部			
		科目	予算	決算	差異 (△印超過)
教職員の人件費に係る支出です。	●人件費支出	18,785,640	18,594,592	191,048	
教育研究に係る支出です。	●教育研究経費支出	12,050,114	10,668,722	1,381,392	
法人業務や学生募集等に係る支出です。	●管理経費支出	1,915,711	1,830,466	85,245	
	●借入金等利息支出	71,418	71,416	2	
土地、建物等に係る支出です。	●借入金等返済支出	568,018	568,017	1	
機器備品、図書等に係る支出です。	●施設関係支出	3,525,618	2,613,273	912,345	
将来の支出に備えるための各特定資産への積み増しです。	●設備関係支出	591,176	622,970	△ 31,794	
	●資産運用支出	3,643,600	3,918,721	△ 275,121	
前年度末に未払いとなっていた経費を支払ったこと等による支出です。	●その他の支出	471,339	618,345	△ 147,006	
	[予備費]	(173,628)			
	●資金支出調整勘定	146,372		146,372	
	●翌年度繰越支払資金	△ 443,401	△ 817,078	373,677	
当該年度に支払うことができなかった支出(期末未払金)と、前年度にあらかじめ支払っていた当該年度の活動に関する支出(前期末前払金)です。	●支出の部合計	45,952,478	45,025,180	927,298	

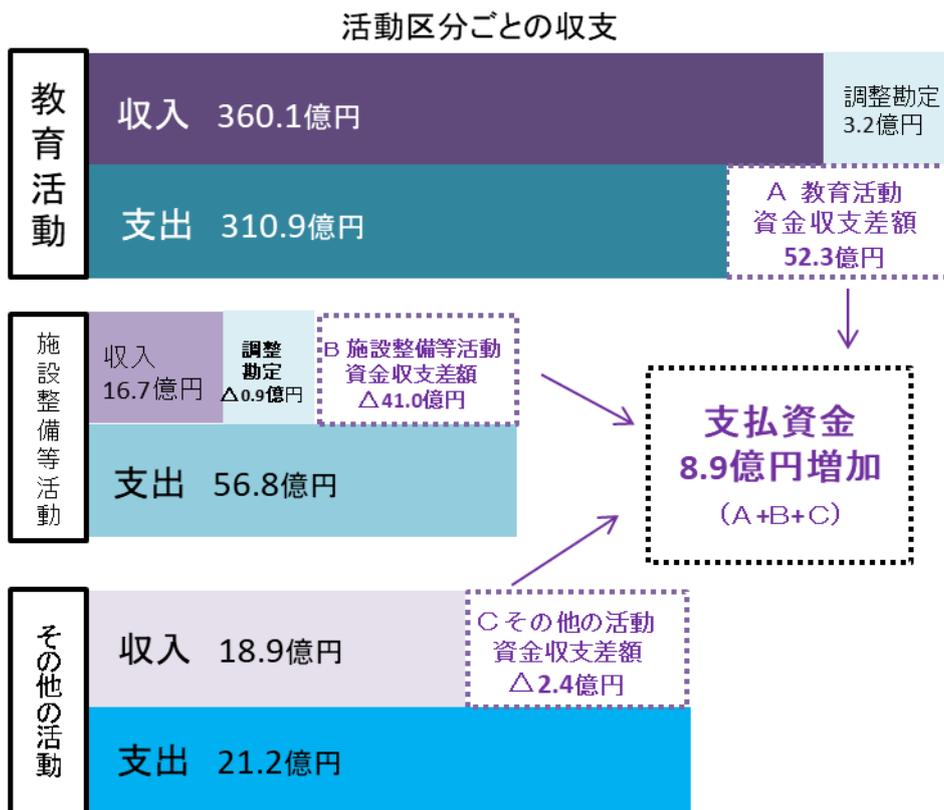
※千円未満四捨五入

3 活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書とは、資金収支計算書を「教育活動」、「施設整備等活動」、「その他の活動」の3つの活動区分に分けて、活動区分ごとの資金の流れを把握するものです。

教育活動による資金収支は52.3億円のプラスになりました。施設整備等活動による資金収支は、新座キャンパス隣接地の取得やスポーツウエルネス学部・研究科設置とコミュニティ福祉学部・研究科再編に伴う教育研究施設整備等を行った他、将来の施設設備の整備に向けて特定資産の積極的な積み増しを行ったため、41.0億円のマイナスとなりました。その他の活動による資金収支も、財政基盤強化のための特定目的資産の積み増しを行ったため2.4億円のマイナスとなりました。以上の結果、翌年度繰越支払資金は前年度比で8.9億円増加しました。

図2 活動区分資金収支計算書の構成 概要



活動区分資金収支計算書

いわゆる“学校法人の本業”で、キャッシュフローベースでの採算がどの程度確保できたかを明らかにする区分です。

● ■ 教育活動による資金収支 (単位：千円)

科目	金額
学生生徒等納付金収入	28,234,916
手数料収入	1,980,487
特別寄付金収入	897,111
一般寄付金収入	298,700
経常費等補助金収入	3,539,657
付随事業収入	300,306
雑収入	756,502
教育活動資金収入計	36,007,681
人件費支出	18,594,592
教育研究経費支出	10,668,722
管理経費支出	1,830,453
教育活動資金支出計	31,093,768
差引	4,913,913
調整勘定等	318,525
教育活動資金収支差額	5,232,438

土地や建物の購入・建設のための施設関係支出や、備品等を購入するための設備関係支出、それらの財源になる寄付金、補助金、特定資産に関する区分です。

● ■ 施設整備等活動による資金収支

科目	金額
施設設備寄付金収入	8,527
施設設備補助金収入	103,469
建設資金引当特定資産取崩収入	1,554,360
施設整備等活動資金収入計	1,666,356
施設関係支出	2,613,273
設備関係支出	622,970
減価償却引当特定資産繰入支出	334,027
建設資金引当特定資産繰入支出	2,111,580
施設整備等活動資金支出計	5,681,850
差引	△ 4,015,495
調整勘定等	△ 85,464
施設整備等活動資金収支差額	△ 4,100,958

経常的な活動による資金収支差額です。

● 小計 (教育活動資金収支差額 + 施設整備等活動資金収支差額) 1,131,479

借入金、貸付金、資産運用等の主に財務活動に関する区分です。

● ■ その他の活動による資金収支

科目	金額
特定目的引当特定資産取崩収入	1,045,161
貸付金回収収入	29,179
その他	76,499
小計	1,150,839
受取利息・配当金収入	534,059
収益事業収入	200,000
過年度修正収入	150
その他の活動資金収入計	1,885,047
借入金等返済支出	568,017
第3号基本金引当特定資産繰入支出	70,000
退職給与引当特定資産繰入支出	94,559
特定目的引当資産繰入支出	1,308,555
特許権支出	389
その他	9,238
小計	2,050,758
借入金等利息支出	71,416
過年度修正支出	13
その他の活動資金支出計	2,122,187
差引	△ 237,140
調整勘定等	△ 3,944
その他の活動資金収支差額	△ 241,084

支払資金の増減額 (小計 + その他の活動資金収支差額) 890,395

前年度繰越支払資金 5,445,339

翌年度繰越支払資金 6,335,735

※千円未満四捨五入

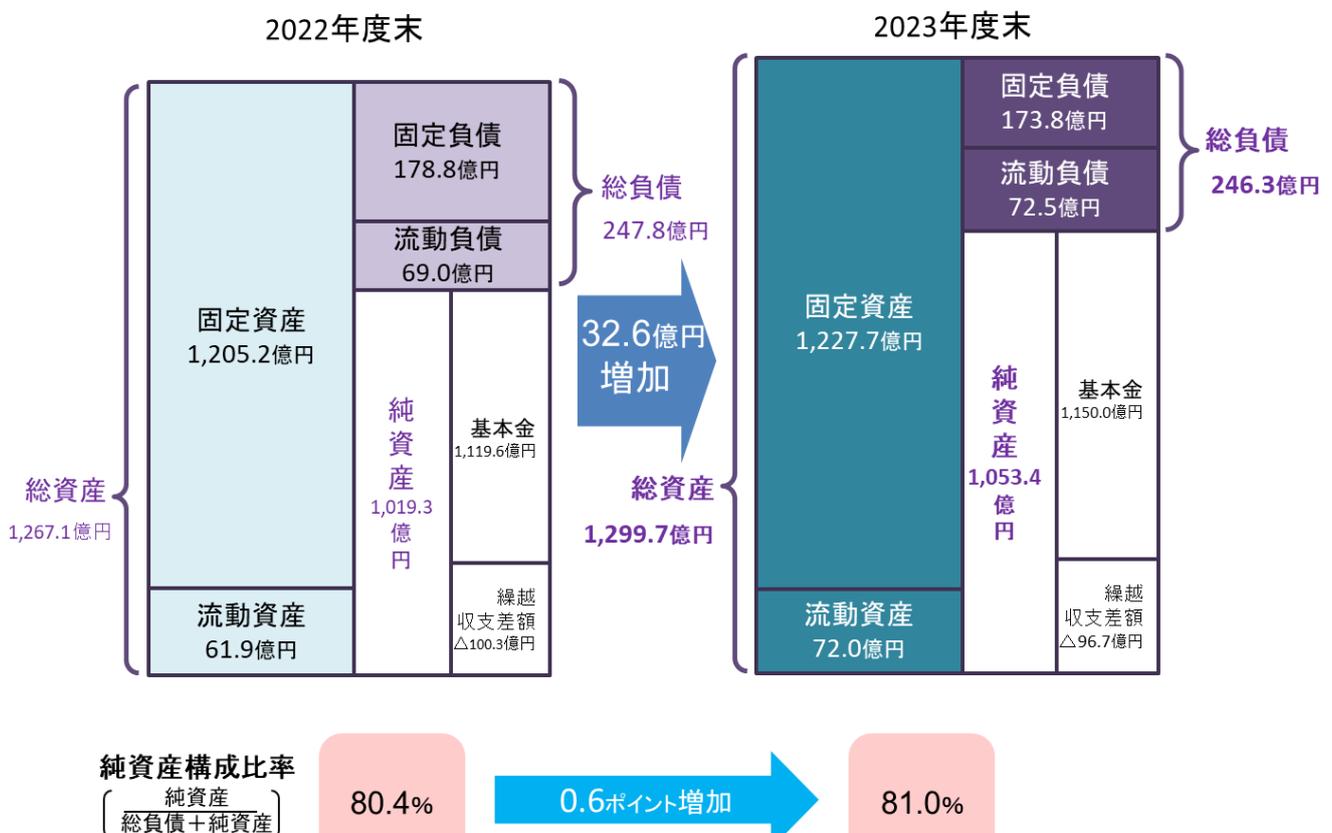
4 貸借対照表

貸借対照表とは、一定時点（3月末現在）における財産の状況を明らかにするものです。

有形固定資産のうち、土地は新座キャンパス隣接地を取得したことにより6.2億円増加し、建物は減価償却の進行等により13.6億円減少しています。新座新棟9号館、新ミッテル館(仮称)建設による建設仮勘定等により、その他の有形固定資産は15.9億円増加しました。特定資産は、今後の新たな教学展開やそれを支える施設整備に必要な投資財源の確保に向け、積極的な積み増しを行ったことにより14.2億円増加し、643.1億円となりました。固定負債は、主に借入金の返済により5.0億円減少し、173.8億円となりました。純資産は34.1億円増加し、1,053.4億円となりました。

また、長期的に財政状態が安定しているかを測る指標に「純資産構成比率」があり、数値が高いほど、必要な資産を自力で調達していることを表し、財政的に安定していることを示します。本学院の同比率は81.0%と増加傾向にあり、健全性が高まっているといえます。(財政比率については「立教学院決算経年推移資料(2019年度～2023年度)」もご参照ください。)

図3 貸借対照表の構成 概要



貸借対照表

■資産の部		(単位：千円)		
科 目	2023年度末	2022年度末	増 減	
固定資産	122,770,355	120,522,747	2,247,607	
有形固定資産	56,172,956	55,323,365	849,592	
土地	7,622,955	7,003,199	619,757	
建物	33,042,926	34,398,341	△ 1,355,415	
その他	15,507,075	13,921,825	1,585,251	
● 特定資産	64,308,171	62,883,687	1,424,484	
第3号基本金引当特定資産	3,248,526	3,178,526	70,000	
退職給与引当特定資産	7,432,523	7,414,364	18,159	
減価償却引当特定資産	7,346,103	7,012,076	334,027	
建設資金引当特定資産	16,557,210	15,999,990	557,220	
その他	29,723,809	29,278,731	445,079	
● その他の固定資産	2,289,227	2,315,696	△ 26,469	
有価証券	15,000	15,000	0	
長期貸付金	2,204,244	2,236,684	△ 32,440	
その他	69,984	64,012	5,971	
流動資産	7,199,219	6,185,883	1,013,336	
現金預金	6,335,735	5,445,339	890,395	
その他	863,485	740,544	122,941	
資産の部合計	129,969,574	126,708,630	3,260,944	

使途が特定された預金等の額です。

特定資産に該当しない無形固定資産等(有価証券、奨学貸付金等)の額です。

■負債の部				
科 目	2023年度末	2022年度末	増 減	
固定負債	17,376,280	17,879,238	△ 502,958	
長期借入金	3,724,950	4,292,760	△ 567,810	
退職給与引当金	6,857,729	6,974,562	△ 116,833	
その他	6,793,601	6,611,916	181,685	
流動負債	7,254,214	6,901,355	352,859	
短期借入金	567,810	568,017	△ 207	
未払金	807,534	554,436	253,098	
前受金	5,085,837	4,977,164	108,673	
その他	793,033	801,738	△ 8,704	
負債の部合計	24,630,494	24,780,592	△ 150,098	

基本金とは、学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、その事業活動収入のうちから組み入れられた金額です。

■純資産の部				
科 目	2023年度末	2022年度末	増 減	
● 基本金	115,004,267	111,956,134	3,048,133	
● 第1号基本金	109,437,700	106,459,567	2,978,133	
● 第3号基本金	3,248,526	3,178,526	70,000	
● 第4号基本金	2,318,041	2,318,041	0	
● 繰越収支差額	△ 9,665,187	△ 10,028,096	362,909	
翌年度繰越収支差額	△ 9,665,187	△ 10,028,096	362,909	
純資産の部合計	105,339,080	101,928,038	3,411,042	

自己資金で取得した、教育研究に必要な固定資産(土地、建物、備品、図書等)の額です。

奨学基金等、基金として継続的に保持し、運用する資産の額です。

最低限保持すべき約1カ月の運転資金に相当する額です。

科 目	2023年度末	2022年度末	増 減
負債及び純資産の部合計	129,969,574	126,708,630	3,260,944

※千円未満四捨五入

おわりに

以上のとおり、2023年度は、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行したことにより、留学やゼミ合宿といった対面型の教育・研究活動を再開し、更なる教育・研究活動を推進して参りました。

本学院は2024年度に創立150周年を迎えます。150年という節目の年に向けて、「学校教育の進化」「一貫連携教育の進化」を教育テーマに掲げ、オール学院で質の高い教育研究活動を維持し発展させていくため、引き続き適切な財政運営に努めていきたいと考えています。

以上